オウム対策住民協議会ニュース

鳥山地域
オウム真理教対策
住民協議会

彼らはなぜテロに走ったのか

講師　川島堅二氏

鳥山地域オウム真理教対策住民協議会　第34回学習会要旨

5月13日(土)鳥山地域オウム真理教対策住民協議会が主催した、第34回抗議デモは、雨天の中約180名が参加した。その後カルト宗教についての研究論文を多数発表している、元恵泉女学園大学学長の川島堅二氏が、サリン事件による死刑囚と無期懲役の元信者の二名を対比し、オウム真理教との関わりや、死刑についての考えを講演した。以下その内容を要約する。

地下鉄サリン事件の実行犯、林郁夫(無期懲役)と広瀬健一(死刑)を通してオウム真理教を検証した。林郁夫は「オウムと私」という手記を通じてその軌跡をたどることが出来た。広瀬健一は、唯一個人的に東京拘置所で面会し、話を聞くことができた。二人の共通点は、高学歴ということと、物事を突き詰めて考えるという、宗教を受け入れる素地があったことだ。広瀬健一は新興宗教に警戒心があったが、瞑想には関心があった。一方林郁夫はヨガに興味があり、二人とも書店で偶然麻原の著書に出会い、オウム真理教への入信のきっかけとなった。広瀬健一のオウム入信のプロセスは、神秘体験をした後麻原に会い、一層麻原を信奉することとなる。林郁夫は入信し麻原からホーリーネームをもらうが、修行で成就したとは思っていなかった。地下鉄サリン事件でサリン散布までの心境にも違いがハッキリしている。広瀬健一は麻原の教え、殺人はその人を成就させ生まれ変わらせる(パジラヤーナ)に疑問や迷いはなかった。林郁夫は結婚をしていた身で、家族のことを考え実行には葛藤があり、いやだ、やりたくないとの心境だった。事件後広瀬健一は黙秘を続けたが、その後実行犯であることを認め供述を始めた。林郁夫は実行犯の他の4人とは違い、サリン散布を、直接麻原から命令されたことへの戸惑いがあった。自首し実行について証言したことで、事件がオウム真理教の犯行と明らかになった経緯もある。ここで川島氏は実行犯の死刑について、放送大学で講演した内容として、麻原を含め13人の死刑執行には反対と語り、その理由に言及した。1、麻原の精神状態が正常なのか詐病なのか、医療的な措置をする必要がある。2、麻原をはじめ13人を死刑にすれば、キリストの12人の弟子の殉教者になぞらえ、アレフの活動を勇気づけ、活発化させることとなる。終身刑として謝罪の人生を送らせることもあってはいいのではないかと語られた。

終わりに、現代社会と宗教について話をする中で、テロ行動を行ったオウム真理教の真実を話し伝えて行くことと、風化させない活動の大切さを認識した。さらに二度とこのような団体を作らせないこと、教祖にコントロールされるような信者をつくってはいけないことを、サリン事件を知らない若者たちへ伝える大切さを語られた。

左から 上島区議会議長、保坂世田谷区長、古馬協議会会長

新樹苑もちつき大会会場で募金活動

3月12日(日)新樹苑の三世代交流もちつき大会会場で、今年も募金活動を行いました。当日は天気は良かったが、冬に逆戻りしたような寒い一日で、立っていても足元からじわじわと寒気があがってきます。もちつき大会では、子供用の杵が用意され、大人に混じり楽しんでいました。その中にいた子供が、不思議そうに私たちを見て「何しているの」と聞いてきます。募金箱の前でタスキを掛けているので、不思議だったようです。「今から22年前にサリンで殺人をしたグループが鳥山にいるんだよ」と話すと頷いていました。新樹苑では毎年募金活動に協力して頂いていることもあり、皆さん協力的で募金もたくさん頂きました。本当にありがとうございました。

足立区「第16回 抗議デモ及び集会」に参加して

3月25日(土)足立区入谷地域オウム真理教対策住民協議会の抗議デモに参加してきました。桜の木がたくさんあり、桜が開花したらさぞかし美しいと思われる公園に、住民が続々と参集してきます。町会のプラカードが並び、オウム真理教反対ののぼり旗が多数はためき、住民協議会の活動の勢いが感じられます。公園の中では、観察処分期間更新の署名活動も活発に行われていました。デモ行進は多くの参加者で長い行列となり「オウムはいらない」「オウム反対」「オウムは解散しろ」などのシュプレヒコールを行いながら、オウム真理教(アレフ)施設に到着しました。抗議文を読み上げましたが、施設には人がいるのですが、誰も出てくる気配がありません。仕方なく抗議文をポストに投函して、再びシュプレヒコールを繰り返しながら、廃校となった学校の校庭へと行進しました。その後前回の抗議デモから今日までの活動報告があり、署名活動を頑張ろう、一人でも多くの署名を集め、観察処分の期間更新を勝ち取ろうと、力強い言葉で終了となりました。

オウム真理教(アレフ)施設へデモ行進をする住民

第34回抗議デモ・学習会のアンケート報告

【実 施 日】平成 29 年 5 月 13 日（土）
【回収枚数】47 枚
【参加回数】初めて（7）、2回目（4）、3回目（5）、4回目（2）、5回目（6）、6回目（1）、7回目（0）、8回目（1）、9回目（0）、10回以上（20）

【抗議デモ・学習会への感想】
・冷静な見解を淡々と述べられて、大変記憶に残る話でありました。
・新しい視点でオウム真理教を学ぶことができた。
・オウムに走った理由は良くわかりました。これから新たにオウムに走る事を止める対策を聞きたかった。
・麻原の死刑について考えを聞かせていただいて良かった。ちまたではどうなっているのかという話を聞くので。
・もっと分析した話が聞きたかった。
・講師の淡々とした話に感動した。今まで知り得なかった事も知る機会を得たと思った。
・この何年かの中で一番良かったと思います。とても考えさせられる内容で是非多くの方々に先生のお話を聞いていただきたいと思います。
・とてもわかりやすく、これまでとは違った視点での講演で良かった。宗教学の観点も大事だと感じました。
・二人の元信者の手記の紹介はわかりやすかった。
・元信者を対比した事でオウムの教義がカルトであると確信できました。
・遺族の方々のお気持ちを思うと、死刑にならない、寿命を全うさせることは如何なものかと思う反面、神聖化されてしまうとオウムの活動は決して消滅することもないのではないか。複雑な気持ちです。

【協議会活動について】
・若者はオウム真理教を知らない方が多いです。活動を長くしていることでオウム信者が烏山では少なくなっています。雨でも風でもデモ行進をする事は、良いと思います。
・17年に渡って活動し続けてきたが、オウム真理教を風化させない活動になっていると思う。
・抗議デモ・学習会に参加してとても勉強になりました。PTAとしてだけではなく、地域の一人の大人としてもっと意識を持とうと思います。
・日々地域の安全のためにありがとうございます。
・協議会の皆さまの日々の取り組みには本当に頭の下がる思いです。拠点があるということは、活動が活発化できる要因の一つです。解体されるその日まで体に気をつけていただければと思います。頑張って下さい。

愛知県豊明市桜ケ丘区の活動について 寄稿

平成20年3月22日、豊明市栄町にひかりの輪名古屋支部豊明施設が開設され9年が経過しました。私どもひかりの輪対策協議会も、平成24年4月から、監視活動を最重要課題として活動していますが、監視活動に新たな団体が加わり、活動の輪が広がっていることを嬉しく思っています。平成27年度より中部公安局、豊明市防災防犯対策室が加わって頂き、従来からの桜ヶ丘区、防犯パトロール隊の4団体で監視活動を行っています。幸いにも、上祐派は主流派と比較して活動が静かですが、月一回であった信徒の集まりが、月2回連続して行われたり、一日、昼夜の2回行われたりしています。又、集中セミナー等と称して特別に行う場合があります。昨年の夏、若い女性3名が施設の場所が分からず、近辺をウロウロしていたことがありました。聞いてみたら、ネットで体験セミナーを知ったと答えました。ひかりの輪の団体が、どのような危険な団体であるか知らないまま、興味本位での行動でした。団体の概況を話したら驚愕し、あわてて帰っていきました。一度足を踏み入れたら抜け出すことが困難な世界、甘い罠にはまらないことを願うばかりです。平成28年度の監視活動の実施回数は19回、施設を訪れた信徒の数は、男117名、女73名で合計190名でした。一回当たりの信徒参加数は10名、一昨年は一桁台であった信徒の参加数は、確実に増加していて憂慮しています。監視活動の結果は区内に周知し、地域住民の不安解消に努めています。公安調査庁からは立ち入り検査の結果報告を受け、又、地域住民との意見交換会で実施状況などの説明をして頂いています。意見交換会（別紙写真）は公安調査庁、警察、豊明市、地域住民の4団体が参加して意思の疎通を図っています。平成7年、日本中を震撼させた地下鉄サリン事件、その被害者であるNHK放送記者と接触する機会がありました。その方は未だ後遺症で悩まされているそうで、私どもの活動を興味深く聞いてこられました。アレフ、ひかりの輪のような危険団体が一日も早く壊滅することを願い、この活動を続けてまいります。

住民協議会活動報告

5月23日（火）　実行委員会
5月29日（月）　編集会議 住民協議会ニュース初校正
6月2日（金）　オウム真理教対策
関係市区町連絡会総会参加
6月3日（土）　下町まつりで署名・募金活動
6月4日（日）　第41回桐の会発表会で署名・募金活動
6月5日（月）　編集会議 住民協議会ニュース再校正
6月6日（火）　事務局会議
6月13日（火）　住民協議会ニュース発行

協議会ホームページアドレス　http://www.kyogikai.jp

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。

本紙についてのお問い合わせ：世田谷区南烏山6-22-14　烏山総合支所内住民協議会　電話 03（3326）1202・FAX 03（3326）1050